

もくじ

1. フランダースの犬 2
2. ゾウの鼻はなぜ長い38
3. まほう使いの弟子58
4. ガリバー旅行記84
5. 秘密の花園 116

フランダースの^{いぬ}犬

原作： ウィーダ

イラスト： しらい ゆうこ

編集： YellowBirdProject

ベルギーのフランダース地方^{ちほう}にある、小さな村^{ちい むら}に、『ネロ』
という少年^{しょうねん}がいました。

ネロは、大好きなおじいさん^{だいす いぬ}と、犬の『パトラッシュ』^{いっしょ}と一緒
に暮^くらしていました。

おじいさんの仕事^{しごと}は、村^{むら}の農家^{のうか}からしぼりたてのミルクを
あつめて、それをアントワープの町^{まち}へ届^{とど}けることです。ネロと
パトラッシュもそれを手^て伝^{つた}い、今日^{きょう}もみんな^{みんな}で、ミルク缶^{かん}を
つ^つ積^{にぐるま}んだ荷車^ひを引^ひいて、アントワープの町^{まち}へ向^むかいました。

ネロはアントワープの町^{まち}を訪^{おとず}れた時^{とき}、必^{かなら}ず教会^{きょうかい}に立^た
寄り^よりました。そこには、ルーベンスという画家^がの描^かいた、
マリア様^{さま}の絵^えが飾^{かざ}ってありました。ネロは絵^えを描^かくのが
大好き^{だいす}でした。この教会^{きょうかい}には、もう一枚^{いちまい}、ルーベンスの描^か
いた絵^えが飾^{かざ}ってあるのですが、お金^{かね}を払^{はら}わなければ見^みることが
できないので、貧^{まず}しいネロは、まだ一度^{いちど}もその絵^えを見^みたこと
がありませんでした。



それは、まほう使いがいつもかぶっている、^{つか}青い大きな
トンガリ帽子^{ぼうし}でした。

男^{おとこ}の子^こは、その帽子^{ぼうし}をかぶってみました。

「やっぱり^{おお}ぼくには^す大き過ぎるな。

でもこの帽子^{ぼうし}をかぶっていると、先生^{せんせい}みたいに
すごいまほう^{つか}が使える^きような気がするぞ」

男^{おとこ}の子^こは帽子^{ぼうし}をかぶったまま、まほう使い^{つか}の部屋^{へや}を
出^でていきました。



とびら あ しゅんかん め と こ
扉を開けた瞬間、まずメアリーたちの目に飛び込んで
きたのは、いちめん さ みだ はな かだん
一面に咲き乱れる、バラの花びらでした。花壇
からあふれ出るほどの伸びたバラのツルが、みち だ いけ
道にはみ出し、池は
ひ あ じめん あ
干上がり、地面は荒れてでこぼこしていました。

しかし、それでも花たちは、はな ちからづよ うつく さ
力強く、美しく咲いていま
した。

やしき にわ ばしよ
「へえ・・・屋敷の庭に、こんな場所があったんだ・・・」
すてき ばしよ
「こんなに素敵な場所を、このままにしておくのは
もったいないわ」

じぶん ちから ふたた はなその
メアリーは、自分たちの力で、再び花園をよみがえらせ
ようとして心に決めました。

ふたり ないしよ にわ なや
二人は、マーサやベンに内緒で、庭の納屋からスコップや
はさみもちだし ひくら はなその てい
その日暗くなるまで花園の手入れをしました。

